

# 「第1回 犀川大橋景観検討委員会」

## 議事録

日 時 平成 19 年 12 月 5 日（水） 9:30～11:30

場 所 金沢市長町公民館

出席者 委員長：水野 一郎（金沢工業大学 教授）  
（敬称略） 委 員：山岸 政雄（金沢学院短期大学 教授）  
半田 隆彦（金沢経済同友会 理事）  
森田 郁代（市校下婦人会連絡協議会 副会長）  
（ 欠席、代理出席：丸岡 喜代子）  
竹村 裕樹（石川県土木部景観形成推進室 次長）  
坂戸 正治（金沢市都市整備局 局長）  
（ 欠席、代理出席：和田 英昭）  
蓮見 有敏（国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所 事務所長）  
事務局：国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所

議 事 委員会の目的について  
現色彩の報告と今後の進め方について  
現地調査を終えて  
アンケート結果について

## 【委員会での意見について】

- ・ 景観的な観点を中心とし、橋の色換えについての検討会としたい。
- ・ 登録文化財ということであるが、色を換えることについての問題はないか。
- ・ 近い将来に、より高位な文化財となる可能性は無いか。

事務局： 文化庁に確認したところ、色の変更は特に問題がないが届出が必要である。

- ・ 観光客に本橋の魅力を知ってもらうための解説板があるといい。
- ・ 色決めには、市民の意見を反映すべきであると思われる。

事務局： 住民に対しては、マスコミや HP などを通じて、本委員会の結果を公表していく予定。HPなどで、意見聴取を随時行っていくことを考えている。

- ・ 公募はしないのか。
- ・ 人気投票のようなものは行わないのか。

事務局： まずは本委員会でいくつかの案（10案くらい）に絞り、それから意見を伺うことも考えられる。基本的には、最終決定は本委員会での協議結果としたい。

- ・ （本橋の色彩を考えるに当たって）大切なことが6点ある。

金沢市の建築規制により、周辺建物の色が茶系に統一されつつある動かしがたい環境を背景とすることを考慮する必要がある。

色の明るさ・暗さについても周辺景観に埋没してしまうおそれがあるため、配慮が必要。（現在のような）明るい感じが（周辺環境と）コントラストがあってよい。明るい橋がよいと考える。

ブルー本体とオレンジ系の光源（ガス灯をイメージしたナトリウムランプ）とはあっていない。金沢の特徴的な暮れなずむような照明との関係にも注意を要する。

周辺の橋との関係を考慮した色とすることも大事。浅野川大橋などは淡い暖色系で、女性の着物が映える。犀川は男性的で寒色系がっているかもしれない。できれば、他の橋（御影大橋や桜橋など）と同じ色ではない方がいい。

アクセントカラーを取り入れることも重要。例えば、照明にアクセントをつける、銘板を目立たせるなど。

季節の変化によって移り変わる周囲の色、自然循環色と、変化しない橋の色との関係についても考慮を必要とする。

- ・ 日本古来の色から考えていくのがよい。
- ・ 日本の伝統色を用いることをコンセプトとすることは重要である。色名を表示するときは「色名」、管理するときは「マンセル値」など分けて考えることもありうる。
- ・ 橋本体に存在感があり重い感じがするので、明るい色が望ましいのでは。ただし、存在感は失わないようにしたい。鉄の橋でありボリューム感がある。暗い色彩では重過ぎる懸念がある。遠・近の両方の視点から考えることも大切である。高欄や舗装など、近景への配慮も大事だ。

- ・ 新橋から見たときに橋の両岸のビルが目立つと感じた。現在の橋の色は寒色系が強いように思われる。河川沿いに設置された遊歩道の転落防止柵なども含め、まとまりをもった周辺整備が必要である。
- ・ 片町商店街から西茶屋街まで一体とした町作りも含め検討しても良いのではないか。
- ・ 前回の色決めでは、橋の下部は川の色、上部は空の色とし、その間のグラデーションを表現した。この時期になると、川の水は緑がかったようになる。ブルーの中に緑を少し混ぜたような色も考えられる。  
まちづくりのベースが茶系である。ここ（犀川大橋）は1つの関所・ゲートである。寒色系でコントラストをつけるのがよいのではないか。  
まちの雑踏、まちとのコントラストを考えると参考事例にあるような赤や黄はこのまちに合わないだろう。この考え方はこれからも変わらないでよいと考える。それが金沢らしさではないだろうか。  
アンケートの結果にもあったが、金沢の特産である金箔を使ってみたい。前回の委員会ではリベットへの適用を考えたが、1万箇所もあり現実的ではなかった。例えば、橋の上部に設置された橋銘板などに使用してみてはどうか。
- ・ 橋の下部に設置されている配管類は、今回の検討の対象とはならないのか。これらも含めて考えていくべきである。
- ・ 周辺の看板なども含め、橋周辺の環境整備も考えられる。
- ・ 全国的も橋の色に対する市民の関心は高い。今回のことをきっかけとして、市民の周辺環境に対する意識の改善につながる。

以 上